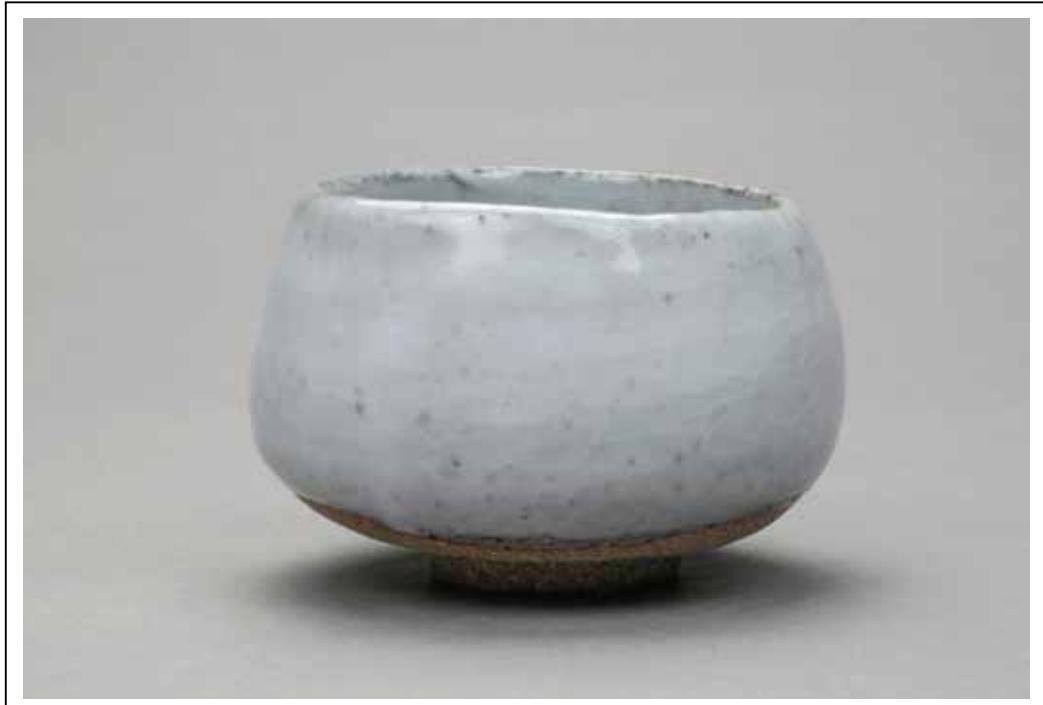


阿づまの光

A Z U M A N O H I K A R I

信仰の徹底したる人なれば
いかなる逆境も切りぬけてゆく

【尊師 出口日出磨】



教主さまお作 灰釉茶器 「かざろひ」

阿騎の野土／宇陀（松+桜+カリン+櫻）釉

茨城主会長 渡邊 弘子



信仰者としての光

10月26日、大本東京本部を会場に、大本茨城主会合同慰靈祭に合わせて第27回信徒大会を開催いたしました。大本本部から大道場講師の串崎哲先生をお迎えして、記念講話を聞かせていただきました。講題は「み教えに導かれて、本部奉仕50年から学んだこと」でした。ご自身の半生を軸に語られる講話は大変新鮮で、その内容は次の4項目にまとめられていました。

- (1) 人生に無駄は一つもない（どんなことにも真正面から向き合う）
- (2) ご守護は動いてこそ頂ける（じつとしていてはご守護はない）
- (3) 逆「四大綱領」で歩む人生（造→慣→教→祭）
- (4) 信仰とは「護られている」という確かな安心感（一切「唯神」）

正に「目から鱗」でした。とかく信仰やみ教えは難しく考えてしまったがちですが、詰まるところ信仰は人生そのものであるとのことです。自分自身の確立を経る中で、信仰者同士またあらゆる社会の周りの方たちと交わり、絆を深めていくことが最も大切であると確信いたしました。また、(2)の項目で「じつとしていてはご守護はない」とまで言わされた本質は「考えたことは必ず実行する」ことだと思います。

現在、主会の運営は財政的に厳しい状況にありますが、これは全国的にも共通する状況と察します。それを乗り切るために、主会としては一人一人の絆、分所・支部同士の助け合いがどうしても必要です。それを生み出す力の源泉が、今回教えていただいた4項目の教えだと思います。ご教示を実践し、この現状を必ず乗り切ります。

また、「講話の最後には聖師さまの次のお歌が紹介されました。
「朝夕に汗して働くなりはひの中にこもれる宗教のひかり」（『大本の道』）

人は人生を歩む中で、人としてできる限りの努力を行う日々の中に、信仰者としての「光るもの」が出てくるものと思います。人生、信仰における羅針盤をいただいた一日でした。「感謝」いたします。

東光苑秋季大祭を執行

東光苑秋季大祭・新穀感謝祭・七五三
詣りは11月9日午前10時30分から、斎主・
出口眞人氏のもと執行され、230人が参

拝した^①・^②。

祭員は各主会祭務部長らが、少年祭員

は小谷香澄さん、伶人は二絃の会関東支

部、大本神諭拝読は高野富輝夫埼玉主会

長が担当。東光庵では、添釜がかけられ、

高野社中が担当した。祭典では信徒有志

からの五穀や野菜の献納品もお供えさ

れ、お下がりとして参拝者に下付された。

祭典後、能舞台では二絃の会関東支部に

よる八雲琴『高倉山』が奉納^④。

続いて、七五三詣りのお子さま3人に橋

本伸作東京センター長から千歳飴とお菓

子が贈られた^⑤。

その後、少年祭員を紹介。

引き続き橋本東京宣教センター長があ

いさつ。続いて出口眞人氏による記念講

話が行われた。出口氏は講話で、大本の

教えを知りたいと思う一般の人の聖地参

拝が増えていくことや、大本の教えと同

じことを世

に広める活動をする人

について紹

介し、世に

くるほど、

大本の教えに気がつく

人が増え、

世の中もよくなつてくるのではないか

と自身の所感を語った^③。

また、直会後、2階講座室で第4回

東光苑ミニ講話が行われ、長友智N P

O法人人類愛善会インター・ナショナル

理事による講話「愛善エネルギー」の探

訪」が行われた^⑤。

なお、1階ロビーでは直心会茨城・

東京連合会による日用品バザー、「心と

体をはぐくむ正食手帖」の販売が、直



お菓子を受け取る七五三詣りのお子さま

東光苑オンライン講座

1月25日(日) 19:00~

月日と土の恩

~万物のはじまり、お土の力~

講師：橋本 伸作（東京宣教センター長）



人間をはじめ万物は、火と水、大地の恩恵を受けて生かされています。その源をたどれば、すべては火と水、そして土へと行き着きます。生命の原点を見つめながら、大地の恵みとその力について学びたいと思います。

大本東京本部ホームページをご覧ください！

第34回家庭平安祈願祭を執行

家庭平安祈願祭（第34回）は、10月25日午

前10時30分から斎主・椎野恭三祭務課長のも

と執行され、28人が参拝した。

祭典では、斎主と祭員が全国から申し込ま

れた338件の氏名を全

て読み上げ、家庭の平安と繁栄を祈願した。祭典

後、橋本伸作東京宣教セ

ンター長があいさつを述べた。

なお、全国から申し込

まれた家庭平安の祈願は

祭典後1週間、東光苑ご

神前で継続された。

なお、全国から申し込
まれた家庭平安の祈願は
祭典後1週間、東光苑ご
神前で継続された。

東光苑七草粥のご案内

毎年1月7日は「人日の節句」と呼ばれ、古来より日本では無益息災と長寿を願い、春の七草の入った七草粥が食されてきました。

東京本部では、令和8年も七草粥を振る舞いたしました。皆さまのご来苑を心よりお待ちしております。

日程 令和8年1月7日(水)
午前10時半~午後2時

会場 大本東京本部



1月

東光苑祭典・行事予定

1日(木) 午前7時
新年祭

1日～3日(木～土) 各日9時30分
年賀

7日(水) 午前10時30分
東光苑七草粥

11日(日) 午前10時30分
東光苑月次祭・成人式式典

25日(日) 午後7時
聖師毎年祭(78年)

19日(月) 午後7時
東光苑オンライン講座(配信)

講題 月日と土の恩
講師 橋本伸作(東京宣教センター長)

11日(日) 午前10時30分
聖師毎年祭(78年)

合格祈願祭(14時)

25日(日) 午後7時
東光苑オンライン講座(配信)

講題 月日と土の恩
講師 橋本伸作(東京宣教センター長)